

# 農林害虫防除研究会における殺虫剤抵抗性対策の新たな取組み

## 殺虫剤抵抗性対策タスクフォース

○山本敦司<sup>1</sup>・土井 誠<sup>2</sup>

<sup>1</sup>日本曹達(株)小田原研究所, <sup>2</sup>静岡県農林技術研究所

【目的】 農業生産現場での薬剤抵抗性病害虫の顕在化は止まるところを知らない。そして、現場の薬剤抵抗性対策のニーズに応え、それを農業生産者へ分かりやすく伝える仕組み作り(山本, 2018)に挑戦するため、農林害虫防除研究会(以下、本研究会)では新たな取組を開始するので報告する。その目的は、第三者的立場から、行政-研究者-現場指導者-生産者が所属組織に関わらず垣根を越えて意見交換・情報共有できる場を提供することである。〔山本(2018)JATAFF ジャーナル, 6(9), 47-52〕

【背景】 薬剤抵抗性発達を遅らせるためには、①「戦略：薬剤抵抗性管理」という大きな枠組みの基に、“後手に廻らない”病害虫防除を考える。その具体化のためには、様々な②「武器：抵抗性対策ツール」を活用して、ローテーション防除などの具体的な③「戦術：抵抗性対策」を実施する。

そして、農業生産現場で薬剤抵抗性管理を進めるために、リスク分析に基づく次のステップを考えた。これは、現場の“営農指導員”や所属が異なる“研究者”からの意見も参考にした。

- 1) 関係する研究者-現場指導者-生産者がそれぞれの立場で、“そもそも何故、抵抗性管理が必要なのか？ そのメリットは何か？”という動機付けをして「問題意識を高める。」
- 2) 薬剤抵抗性管理の「技術開発研究(リスク評価)」を進め、様々な抵抗性対策ツールを取揃えた「施策(リスク管理)」を作る。
- 3) 行政-研究者-現場指導者-生産者の間で、双方向の「薬剤抵抗性リスクコミュニケーション(以下、抵抗性リスクミ)」を行う。

しかし、このいずれのステップも着実に進んではいないものの、整備途上であるのが現状である。

【殺虫剤抵抗性対策タスクフォース】 上記の目的・背景を見据えて、農林害虫防除研究会に、会則第12条に基づき、2019年度より殺虫剤抵抗性対策に関する専門委員会が設置される。その名称を「殺虫剤抵抗性対策タスクフォース」とした。薬剤抵抗性対策を成功に導くための抵抗性リスクミには、参加者が各組織の垣根を越えること、現場目線を意識することが大切である。その点で、本研究会の会員と常任幹事会が、大学、国立研究開発法人、都道府県試験場・等、農薬企業等の民間企業、全国のJA関連組織、生産者等、の多彩な所属から構成されており好ましい。

【活動計画】 下記の計画を、優先順位を付けて実施したい。

- ・本研究会のHPに「殺虫剤抵抗性対策タスクフォース」のコーナーを新設、情報共有を実施。
- ・薬剤抵抗性害虫に関する技術情報収集と抵抗性管理技術の普及(都道府県幹事を窓口として)。
- ・セミナー・講演会等を企画し、薬剤抵抗性リスクミの場を提供。
- ・「薬剤抵抗性農業害虫管理ガイドライン案/農研機構2019.3」の普及支援。
- ・各種の抵抗性対策ツールの開発・作成を企画、支援。
- ・薬剤抵抗性対策にも有効なIPM技術(生物的・物理的・耕種的防除)を推進し連携。
- ・J IRAC(殺虫剤抵抗性対策委員会日本支部)の技術活動と協働。 ・その他(会員からの要望)。

“The Task Force for Insecticide Resistance Management,” a New Team under Agricultural and Forest Insect Pest Management Society of Japan, and its Action Plan for IRM.

Atsushi YAMAMOTO<sup>1</sup>, Makoto DOI<sup>2</sup>

<sup>1</sup>Nippon Soda Co.,Ltd. Odawara Research Center

<sup>2</sup>Shizuoka Prefectural Research Institute of Agriculture and Forestry